



(19)

(11) Publication number: 01151150 A

Generated Document.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(21) Application number: 62309875

(51) Int'l. Cl.: H01M 2/02

(22) Application date: 08.12.87

(30) Priority:

(43) Date of application
publication: 13.06.89(84) Designated contracting
states:

(71) Applicant: MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD

(72) Inventor: TANIGAWA MITSUMASA
HAYAKAWA HAYASHI

(74) Representative:

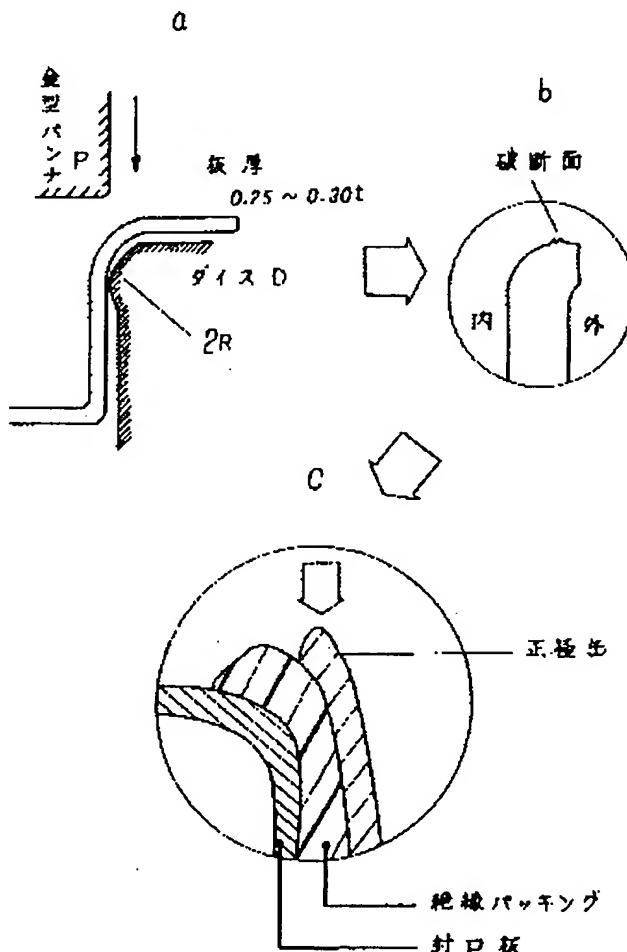
(54) MANUFACTURE OF
POSITIVE ELECTRODE
CAN FOR CELL

(57) Abstract:

PURPOSE: To prevent the occurrence of burrs after punching by putting R suitable for the thickness of a metal thin plate to the corner section of a die punching the metal thin plate for a positive electrode can.

CONSTITUTION: A steel plate or a stainless steel plate with the thickness of about 0.15~0.35mm is formed into a positive electrode can via the punching process by a mold punch P and a die D. The R of the punching corner section of the die D is made 3~2 times the thickness of the plate to be punched, thereby burrs rarely occur on the punch section. This fact is based on the experimentally verified results on Rs with several sizes against plates with several thicknesses.

COPYRIGHT: (C)1989,JPO&Japio



④ 公開特許公報 (A) 平1-151150

④ Int.Cl.
H 01 M 2/02識別記号 庁内整理番号
H-6435-5H

④ 公開 平成1年(1989)6月13日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

④ 発明の名称 電池用正極缶の製造法

④ 特願 昭62-309875
④ 出願 昭62(1987)12月8日

④ 発明者 谷川光政 大阪府門真市大字門真1006番地
 ④ 発明者 谷川林 大阪府門真市大字門真1006番地
 ④ 出願人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地
 ④ 代理人 弁理士 中尾敏男 外1名

2 ページ

明細書

1. 発明の名称

電池用正極缶の製造法

2. 特許請求の範囲

(1) 金属薄板を折り加工後、トリミング加工する缶の製造法であって、前記のトリミング工程におけるダイスの打抜きコーナー部のミを、被切断薄板の板厚の2~12倍にすることを特徴とした電池用正極缶の製造法。

(2) 金属薄板が、鋼板またはステンレス鋼板である特許請求の範囲第1項記載の電池用正極缶の製造法。

3. 発明の詳細を説明

産業上の利用分野

本発明は、ボタン形及びコイン形電池に用いる正極缶の製造法に関するものである。

従来の技術

近年、エレクトロニクスの発達と共に、特に電子辞書用、カメラ用、電子車上計算器用及び各種精密測定機器用の電池として、ボタン、コイン

形電池が使用されているが、電池も精密部品として高信頼、高精度のものが要求されてきている。この点を状況下で、必然的に電池正極缶にも精度が求められ、従来の正極缶は、トランスクーラ方式やプログラミング方式により、金型パンチと金型ダイスロとによって第3回のようく成形加工されているのが通常で、トリミング工程中で第3回の卷に規則なバリが発生していた。

発明が解決しようとする問題点

このような従来の構成では、第3回の上うをバリ原因の為、切断直後やその次工程での研磨、洗浄工程において、フランジ部に発生したバリを除去し、精度をあげようとしているのが一般的であった。同じく電池製造工程での封口状態においても発生する系状バリ、特に応用商品の中で外れ、回路のショートによるトラブルの要因となるので、あってはならないものでありながら、現行での加工法ではこれを防止するとほど難かしい。この点にエレクトロニクス時代に対応し、電池の信頼性を高めていく為には電池製造工程で完

生する上述の鍍金系状バリや粉をなくすことが急務であるという問題があった。

本発明は上述の欠点を解消し、電池用正極缶のプレストリミング工程中で、電池用正極缶の切削面が極力滑らかな破断面となり、バリの発生をさえ、鍍金工程での鍍金系状バリや粉も発生しない精密な正極缶を作ることを目的とするものである。

問題点を解決するための手段

この問題点を解決するため本発明は、電池用正極缶のフランジ部を切断する際に、金型のトリミング工芸のダイス部を、被切断金属薄板の板厚3~1.2倍の刃に加工し、バリの発生を極力おさえ、破断面を滑らかにしたものである。

作用

この構成により、本発明のコイン形、ボタン形電池用正極缶を第1図の如く、トリミング工程の金型ダイスDの打抜きコーナー部のRを、被切断金属薄板の板厚の3~1.2倍として打抜くことにより、フランジ部の破断面が滑らかとなり、従来のよう

に丸すりや石研磨等でバリを取り除く工程も必要とせず、精度の高いものとなる。上述の様に成すことによって、絶縁パッキングと金属性正極缶を内方向に折曲する時に発生する鍍金粉、系状バリ等が無くなり、より電池用正極缶としての精度が向上することとなる。

実施例

第2図は本発明の一実施例による電池用正極缶を用いた電池の部分断面図であり、ボタン形及びコイン形電池共通である。1は金属等の導電性材料の上に、ニッケル鍍金を施して成る正極缶で、その内部には陽極活性質2を収納し、その上面には陽、陰両極間の内部短絡を防止する目的で用いられる隔壁3、及び電解液吸収材4が位置し、更にその上方には金属封口部5に収納された陰極活性質6が位置している。第1図の本発明の正極缶打抜き時の正極缶板厚を0.15~0.35%として、トリミングダイスの打抜きコーナー部のRを0.5~2.5%迄変化させて打抜いた正極缶を使用して、上記構成の電池を作成した際の正極缶の鍍金粉や

系状バリ発生状態の一覧表を表1に示す。なお既述はアルカリボタン形電池LR44で試作した。

表1

		板厚寸法 t 厚み 単位%				
		0.15	0.20	0.25	0.30	0.35
メ	0.6	3.3	2.6	2.0	1.7	1.4
イ	1.0	20	△21	△25	△40	△48
ス	1.0	6.7	5.0	4.0	3.8	2.9
ル	1.0	2	○12	○18	○21	△39
1.5	10.0	7.8	6.0	5.0	4.3	
1.5	11	2	○15	○19	△35	
半	2.0	18.3	10.0	8.0	6.7	5.7
位	2.0	△21	○14	○2	○4	○17
%	2.6	16.7	12.6	10.0	8.3	7.1
		△28	△24	○16	○11	○2

上段
下段

注) 上段: $\frac{R}{t} = \frac{3}{2}$ 倍

(左) 出現数/100個
下段: LR44 正極缶バリ出現率
△: 正極缶 R < 3倍△: 不通過
(右)

同じくアルカリ一次電池で従来方式による正極缶、各々100個構成して温度45℃及び湿度90%の窒素ガス中に保存し、電解液の漏洩率を調査した。その結果を表2に示す。尚、表中よりは従来方式切断の正極缶を採用したもので、Rは本発

明の切断方式のものである。表1の最適条件であるダイスR 2.0%板厚0.25%の正極缶系状バリ、粉の出現率最小の構成した電池を使用したものである。採用の電池はアルカリボタン形電池LR44でA、B共に実験した。従って表中の単位数字は漏洩率%を示す。

表2

保存日数	3	4	5	6	7	8	10	12
	週	週	週	週	週	週	週	週
A	0	2	5	10	16	22	35	56
B	0	0	0	0	1	1	2	3

発明の効果

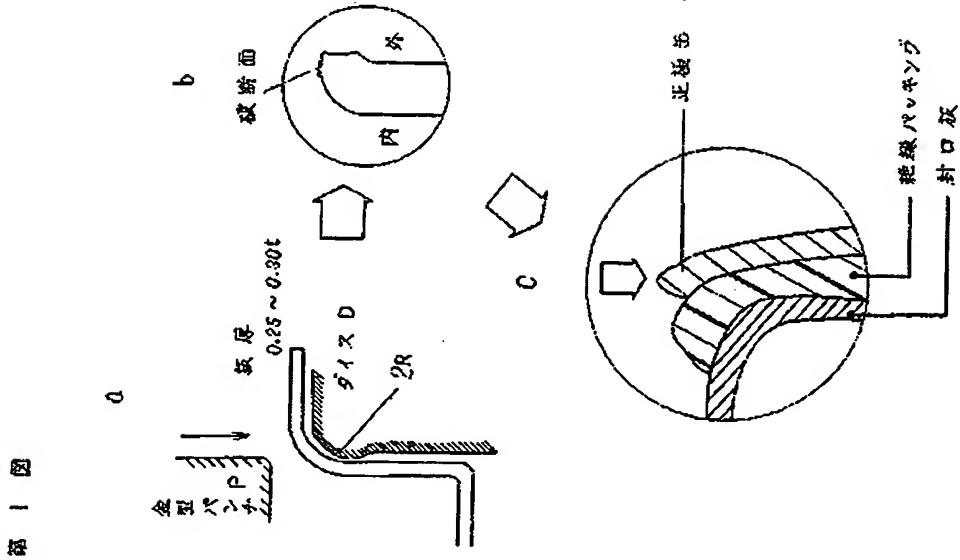
以上のように本発明によれば、電池用正極缶の製造法によって得た金属性正極缶を用いた電池は、鍍金粉及び系状バリの発生が見られないものであり、その他の有機電解液質、中性塩、酸性塩、アルカリ性塩等の電解液を用いたあらゆるボタン形やコイン形電池に至っても、極めて有効であるという効果が得られる。

4. 図面の簡単な説明

第1図aは本発明の切断金型ダイスの図、bはそれによる滑らかな破断面となる拡大図、cは斜口状断面図、第2図はボタン形電極の構成を説明するための要部断面図、第3図e～gは従来の金属正極缶の要部断面図、拡大図、切断方法の詳細図及び封口状態を示す図である。

1……正極缶、2……隔離活性質、3……隔離膜、4……電解液保持部、5……活性質、6……封口板、7……絶縁パッキング、8……封口板表面、9……封口板内面。

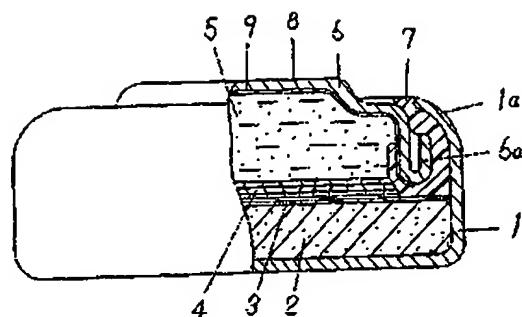
代理人の氏名弁護士 中尾敏男 氏名



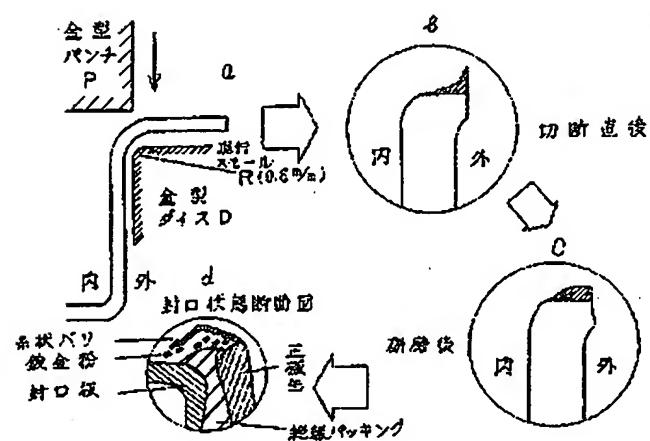
第1図

1	正板	告	板
2	陽板	告	板
3	陰板	陰	板
4	電解液	空	板
5	陰極	板	板
6	封口灰	板	板
7	地線	パ	ン
8	封口板	裁	面
9	封口板	内	面

第 2 図



第 3 図



THIS PAGE BLANK (USPTO)